



# 管内の労働災害発生状況（平成29年分） （平成29年1月～12月発生）

## 1. 労働災害発生状況の推移

当署では、平成30年3月末日までに提出された死傷病報告に基づき、平成29年の労働災害発生状況をまとめました（確定）。

平成29年の死傷災害（休業4日以上）は、前年の498人から513人へと15人、3.0%の増加となりました。死亡災害は、前年の5人から4人と1人減少しました。

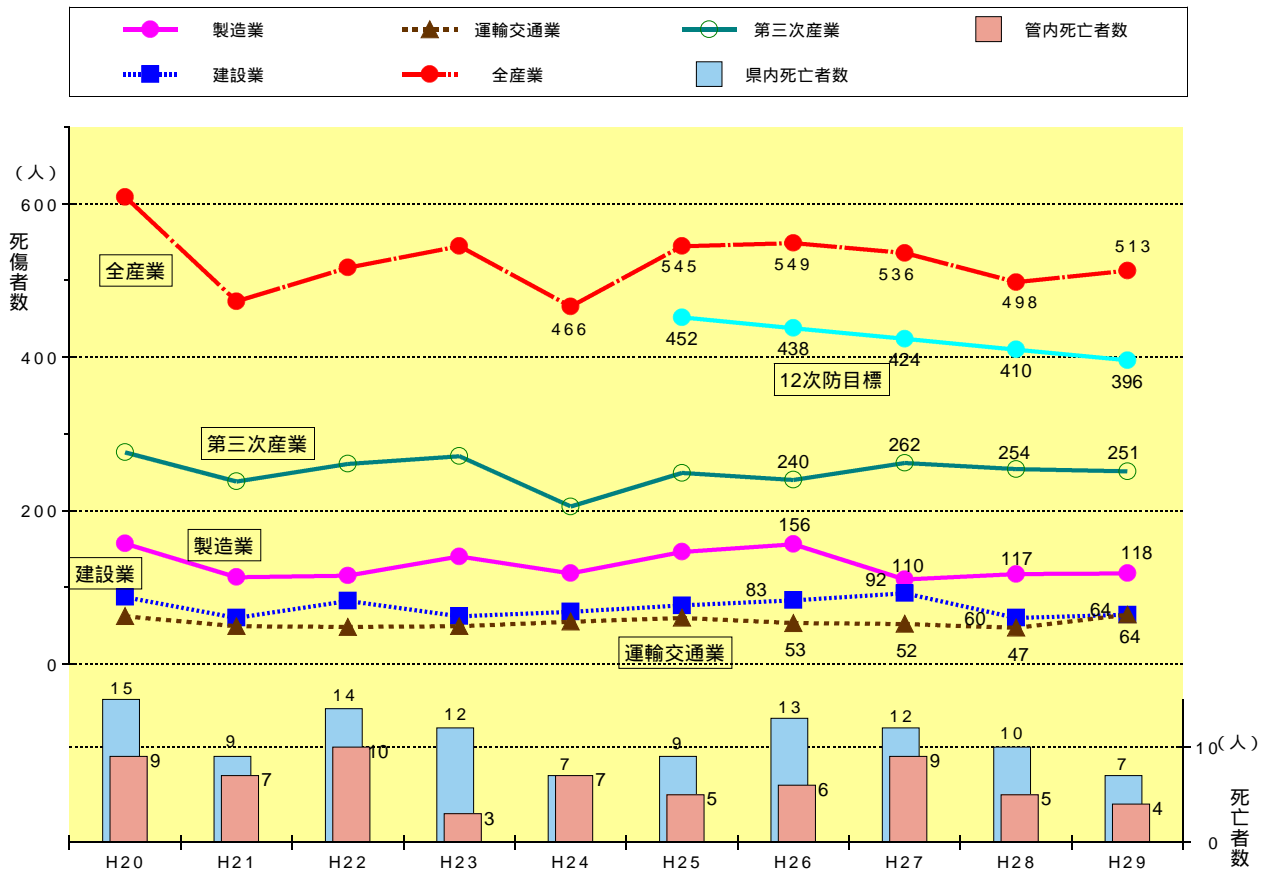
業種別では、製造業が118人と前年からほぼ横ばい状態であるものの、建設業は60人から64人へ6.7%の増加、運輸交通業が47人から64人と36.2%の大幅な増加し、うち2人が亡くなっています(前年は0人)。第三次産業は254人から251人へ若干の減少となりました。

平成29年は第12次防（5年間で15%以上の削減）の最終年でしたが、基準年である平成24年と比較すると10.1%の増加となり、最終年の目標値である396人とは大きな乖離が生じました。

事故の型別で見ると「転倒」災害が28.7%となり、平成27年の「STOP！転倒災害防止プロジェクト」により大幅に減少した以降、連続して増加しました。（27年20.3%，28年24.7%）。

また、製造業では、食料品製造業が、10人、19.2%の大幅な増加となりました。製造業における災害の型別に見ると「転倒」災害が増加しています。

各年の労働災害の推移（平成20年～29年）



各年1月から翌年3月31日までの届出を集計。

## < 災害グラフは、3 ページ以降に続きます >

### お知らせ

本年度から、「第13次労働災害防止計画」(2018～2022年)がスタートします。山梨労働局では、先般、「山梨第13次労働災害防止計画」を策定し、積極的に労働災害防止対策や労働者の健康確保等の対策を講じていきます。

労働災害の削減目標は、以下のとおりですが、詳しくは山梨労働局のHPをご覧ください。

また、甲府労働基準監督署における「第13次労働災害防止計画」は、現在策定中ですので、策定後は皆様にお知らせするとともに、各種対策へのご協力をお願いいたします。

#### 山梨第13次労働災害防止計画（抄：災害防止関係の目標）

##### (1) 全体目標

###### ア 死亡災害

・2017年と比較して2022年までに死亡者数を15%以上減少させる。

または、

・「山梨12次防期間中」と比較して「山梨13次防期間中」の労働災害による死亡者数の総数を30%以上減少させる。

###### イ 死傷災害（休業4日以上。以下同じ。）

・2017年と比較して、2022年までに5%以上減少させる。

または、

・「山梨12次防期間中」と比較して「山梨13次防期間中」の労働災害による死傷者数の総数を10%以上減少させる。

##### (2) 業種別目標

###### ア 建設業、製造業、林業

###### 死亡災害

「山梨12次防期間中」と比較して「山梨13次防期間中」の労働災害による死亡者数の総数を30%以上減少させる。

###### 死傷災害

・2017年と比較して、2022年までに15%以上減少させる。

または、

・「山梨12次防期間中」と比較して山梨13次防期間中の労働災害による死傷数の総数を15%以上減少させる。

###### イ 第三次産業、食料品製造業、商業、保健衛生業、道路貨物運送業

###### 死傷災害を

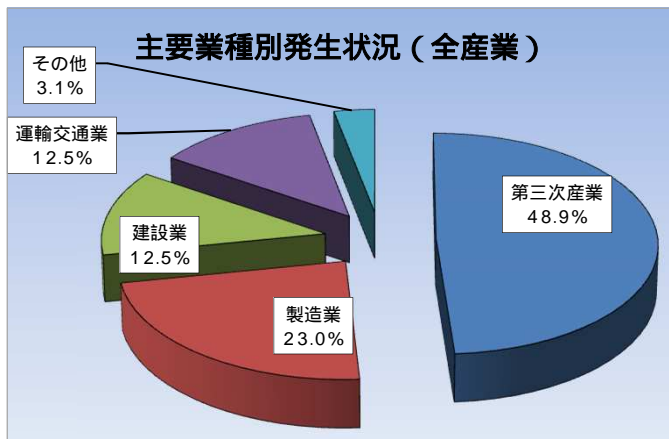
・2017年と比較して、2022年までに10%以上減少させる

または、

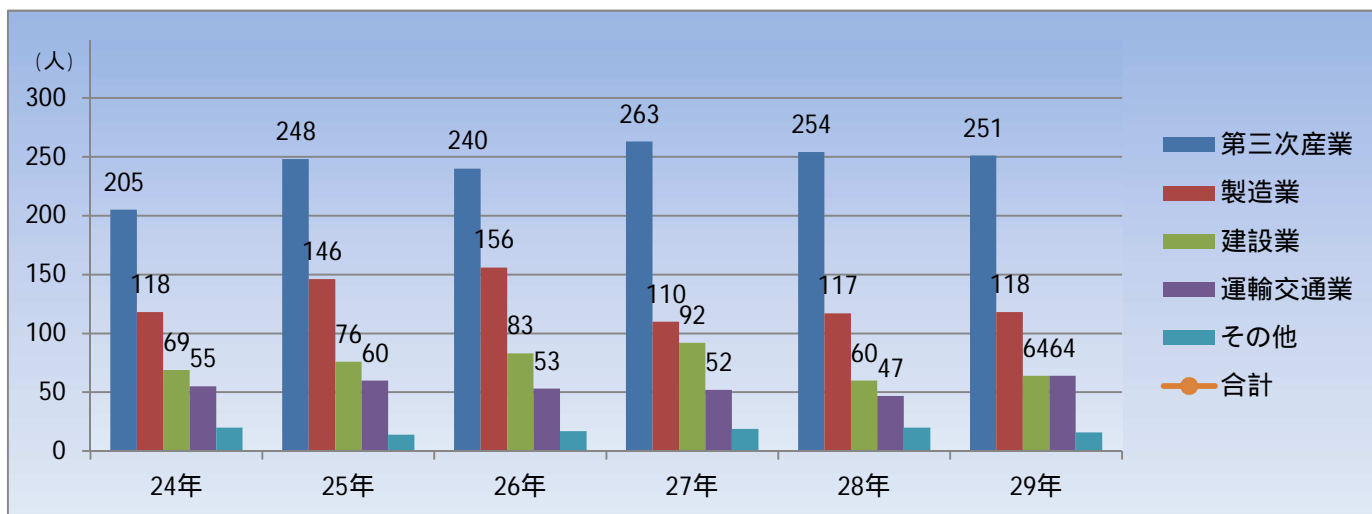
・「山梨12次防期間中」と比較して「山梨13次防期間中」の労働災害による死傷者数の総数を10%以上減少させる

## 2. 業種別労働災害発生状況（平成29年）

甲府署管内の全産業における休業4日以上の死傷者数は513人で、第三次産業251人、製造業118人、建設業64人、運輸交通業が64人の順に発生した。  
 運輸交通業においては、36.2%の大幅な増加となった。建設業においては、平成28年に大幅な減少を見たが、平成29年は、6.7%の増加となった。  
 死亡災害は、製造業2人、運輸交通業2人で、前年より1人減少した。  
 第三次産業(商業・保健衛生業・接客娯楽業・清掃業・通信業などの業種)



### 2-2. 業種別労働災害発生状況の推移



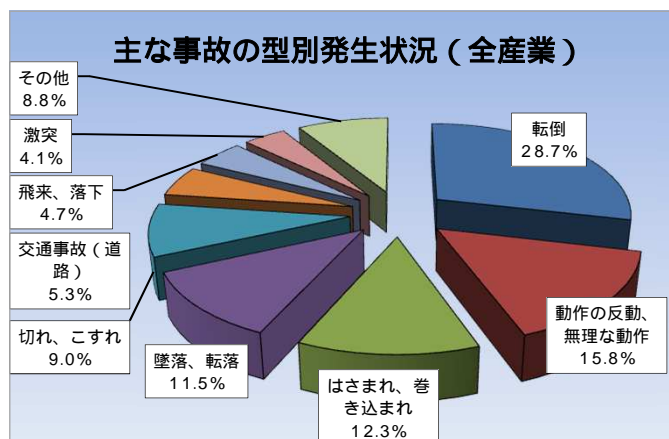
業種別で見た場合、製造業は25・26年の150人前後からここ3年は110-120人程度に収まっている。食品製造業では前年の52人から62人と19.2%の大幅な増加となった。28年は前年比26.8%の増加であり、2年連続の大幅な増加となった。  
 建設業は、27年が90人台であったものの、28年に大幅に減少し、29年はやや増加となったが、低めに推移している。  
 運輸交通業では、平成25年から28年までは、減少傾向にあったが、29年は増加に転じた。中でも、道路貨物運送業は前年の46人から62人と34.8%の大幅な増加となった。

## 3. 主な事故の型別の労働災害発生状況

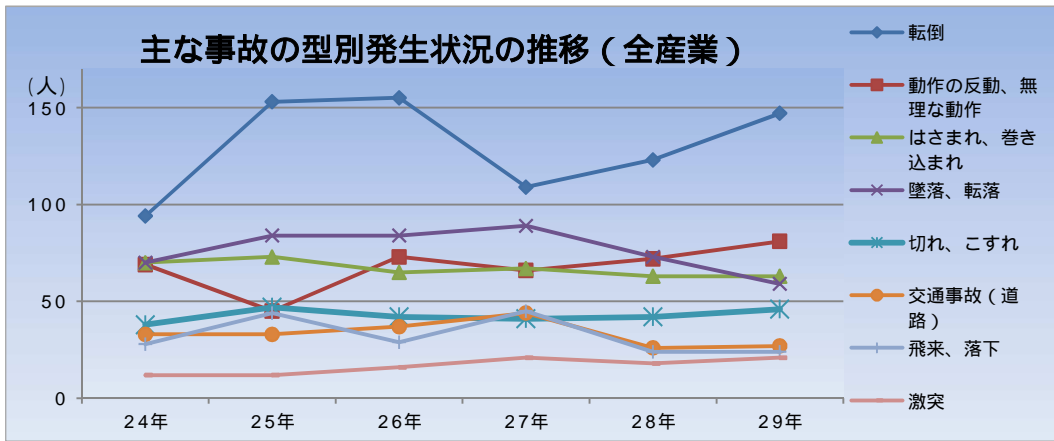
事故の型別で見ると

|             |              |
|-------------|--------------|
| 転倒          | 147人 (28.7%) |
| 動作の反動、無理な動作 | 81人 (15.8%)  |
| はさまれ、巻き込まれ  | 63人 (12.3%)  |
| 墜落、転落       | 59人 (11.5%)  |
| 切れ、こすれ      | 46人 (9.0%)   |
| 交通事故(道路)    | 27人 (5.3%)   |
| 飛来、落下       | 24人 (4.7%)   |

が主な事故の型となっている。



転倒災害については、前年に比べ大きく割合が増加した。平成26年の転倒災害は28%を超えていたものの、平成27年の「STOP転倒災害2015」の取組によりその発生割合は、20%程度まで低下した。しかし、28年には24.7%、29年には28.7%と連続して増加し、取り組み以前の発生状況と同様となった。



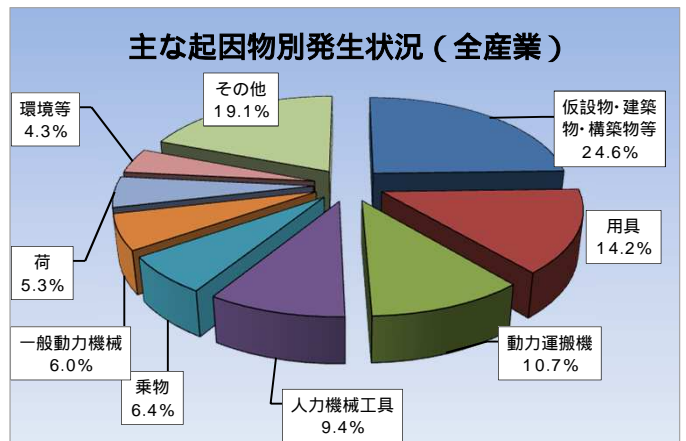
#### 4. 主な起因物別労働災害発生状況

事故の起因物別で見ると

|              |      |         |
|--------------|------|---------|
| 仮設物・建築物・構築物等 | 126人 | (24.6%) |
| 用具           | 73人  | (14.2%) |
| 動力運搬機        | 55人  | (10.7%) |
| 人力機械工具       | 48人  | (9.4%)  |
| 乗物           | 33人  | (6.4%)  |
| 一般動力機械       | 31人  | (6.0%)  |
| 荷            | 27人  | (5.3%)  |

が主な起因物となっている。

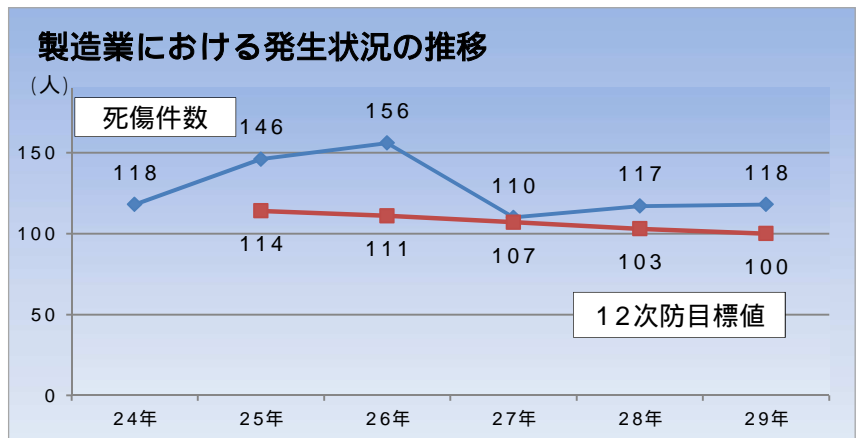
「仮設物・建築物・構築物等」は、足場・作業床・通路・建築物などをいい、墜落や転落、転倒等の起因物になる率が高く、これらの割合が高くなっている。



#### 5. 製造業における労働災害発生状況

##### 製造業における経年推移

- ・製造業における労働災害は平成27年に12次防目標値に近づいたものの、平成28年以降連続して増加し、平成29年は、目標値に対して大きな乖離となった。
- ・製造業の中では、食品製造業が半数以上を占めている。
- ・死亡災害は、平成27年以降連続して発生している。27,28年は各年1人であったが、29年は2人が亡くなった。

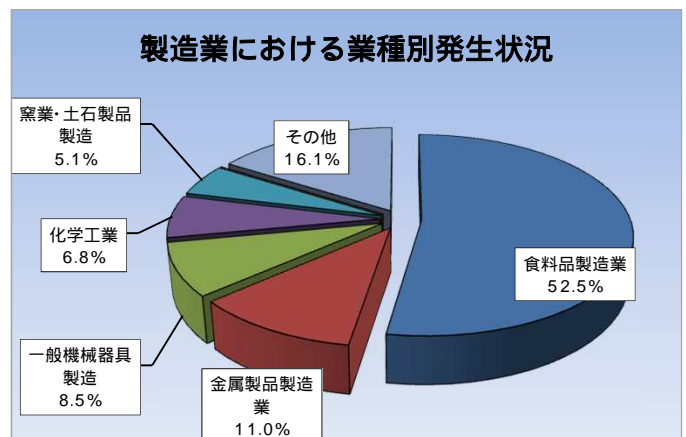


##### 製造業における業種別労働災害発生状況

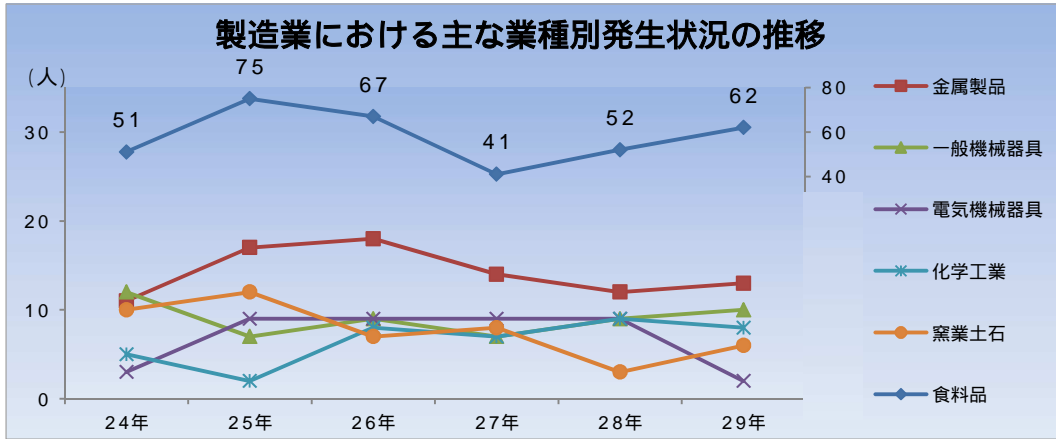
製造業を更に細かい業種で見ると

|           |     |         |
|-----------|-----|---------|
| 食品製造業     | 62人 | (52.5%) |
| 金属製品製造業   | 13人 | (11.0%) |
| 一般機械器具製造  | 10人 | (8.5%)  |
| 化学工業      | 8人  | (6.8%)  |
| 窯業・土石製品製造 | 6人  | (5.1%)  |

が主な業種となっている。



## 製造業における主な業種の経年推移



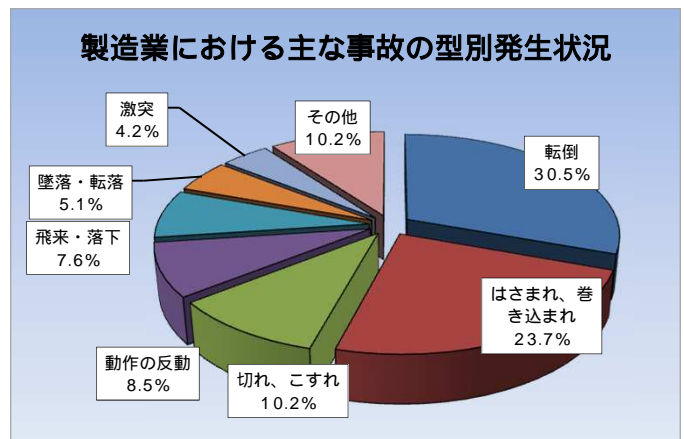
製造業にあっては、食料品製造業の災害が多く増減を繰り返している状況であるが、平成27年を境に増加に転じており、直近2年間に於いて27年比で51.2%の増加となった。

## 製造業における主な型別の労働災害発生状況

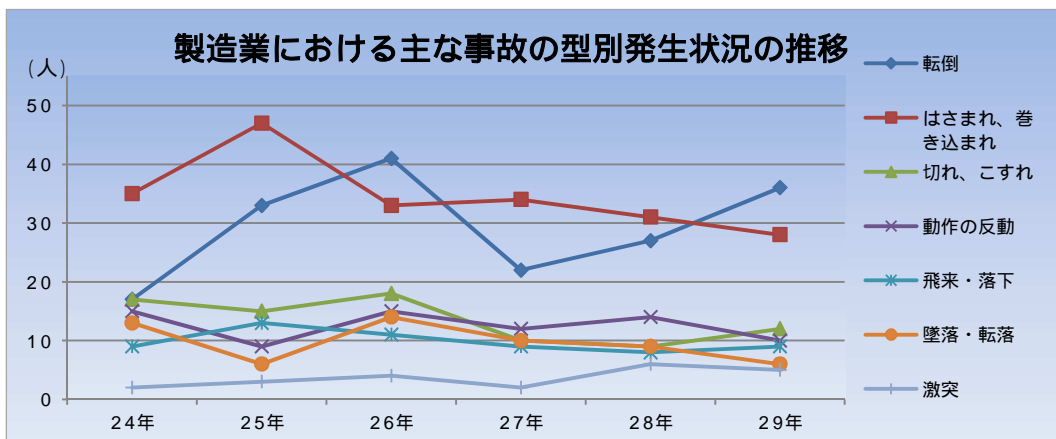
事故の型別で見ると

|            |             |
|------------|-------------|
| 転倒         | 36人 (30.5%) |
| はさまれ、巻き込まれ | 28人 (23.7%) |
| 切れ、こすれ     | 12人 (10.2%) |
| 動作の反動      | 10人 (8.5%)  |
| 飛来・落下      | 9人 (7.6%)   |
| 墜落・転落      | 6人 (5.1%)   |
| 激突         | 5人 (4.2%)   |

が主な事故の型となっている。



事故の型別の発生状況の推移を見てみると、「転倒」災害の占める割合が一番多く、前年の「はさまれ・巻き込まれ災害」の発生割合を超えた。

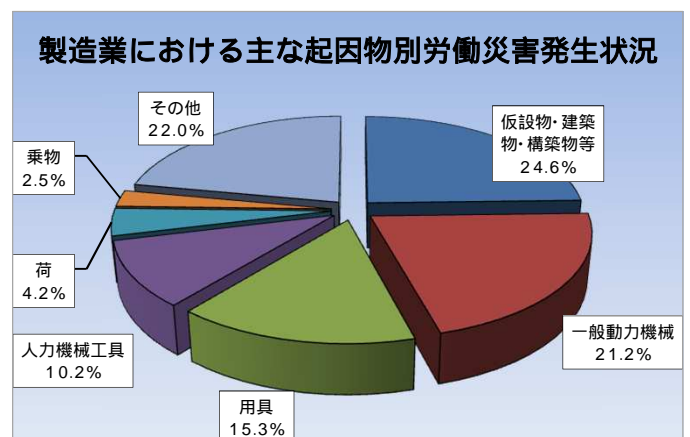


## 製造業における主な起因物別の労働災害発生状況

事故の起因物別で見ると

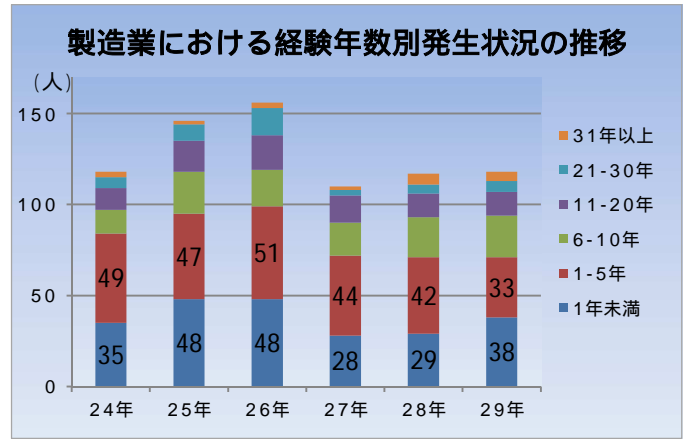
|              |             |
|--------------|-------------|
| 仮設物・建築物・構築物等 | 29人 (24.6%) |
| 一般動力機械       | 25人 (21.2%) |
| 用具           | 18人 (15.3%) |
| 人力機械工具       | 12人 (10.2%) |
| 荷            | 5人 (4.2%)   |
| 乗物           | 3人 (2.5%)   |

が主な起因物となっている。



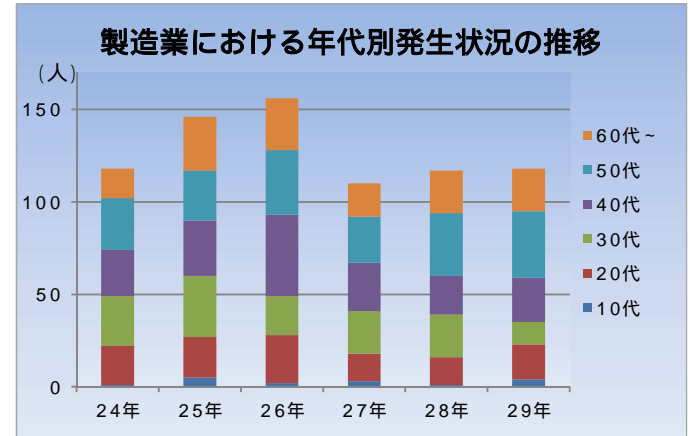
## 製造業における経験年数別労働災害発生状況の推移

経験年数別で見ると、近年は、経験年数の浅い労働者の災害発生割合が高くなってきている。



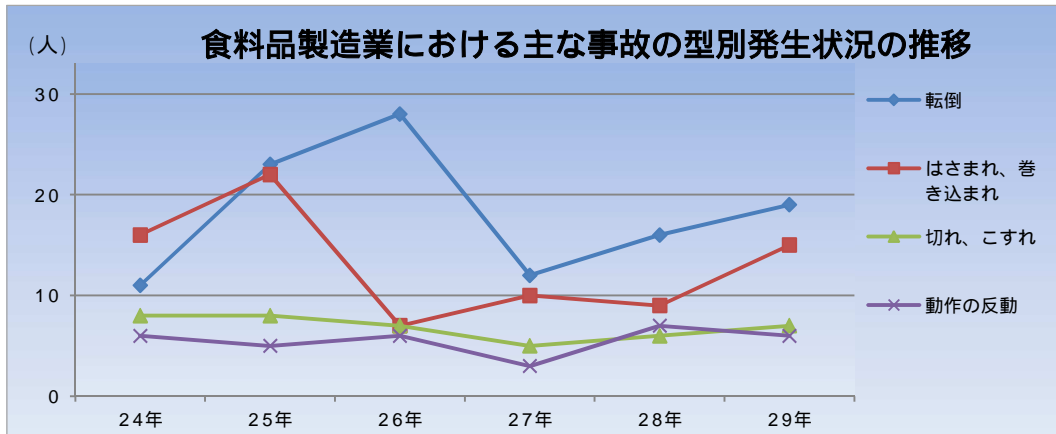
## 製造業における年代別労働災害の推移

年齢別で見た場合には、近年は高齢層の被災割合が高くなってきている。

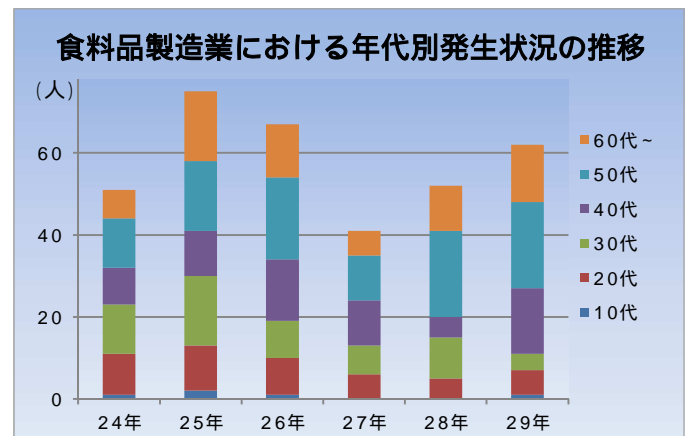
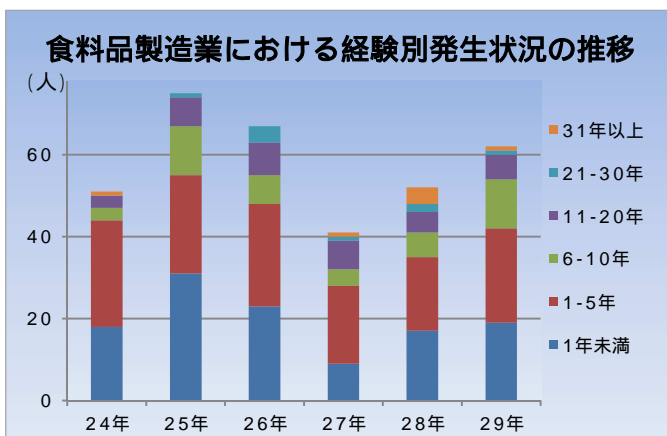


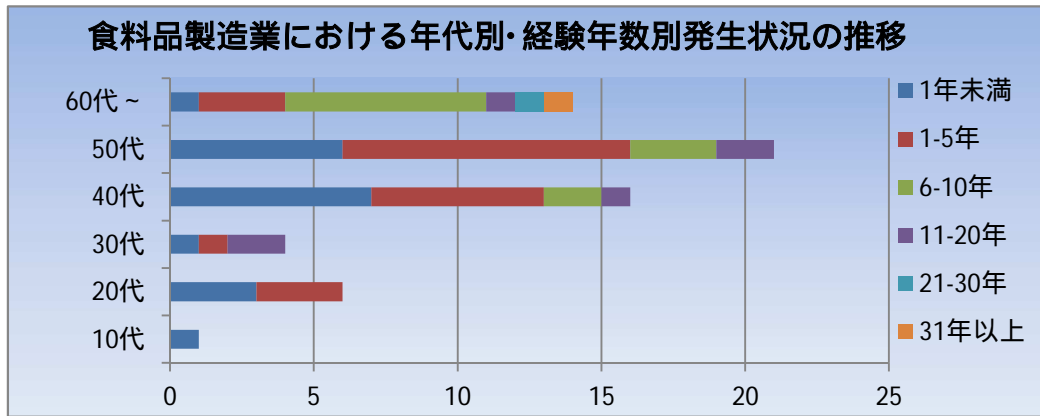
## 食料品製造業における主な事故の型別の労働災害の推移

製造業の中で災害多発業種である食料品製造業においては、前年同期に比べ「転倒災害」及び「はさまれ・巻き込まれ」災害の発生件数は増加した。



## 食料品製造業における経験年数及び年代別労働災害の推移





年齢別、経験年数別をクロスしてみると、特に40代、50代において経験年数の短い労働者の災害が多く発生した。中高年で、新たに食料品製造業へ就労した労働者の災害の発生割合が高いといえる。

就労状況を国勢調査結果（2000年 2015年）から見ると、山梨県内の食料品製造業における就労者数に大きな動きがないとともに、年齢構成割合についても大きな変化はない。

## 平成29年の製造業における死亡災害事例（山梨県内）

1 発生日：平成29年5月31日

年齢、性別：43歳 男性

事故の型：崩壊・倒壊

起因物：クレーン

災害の概要

H鋼（80cm×800cm、1.6t）を移動させるため、橋形クレーンを使用して架台上に載せた後、H鋼から玉掛用具を外してH鋼上面に仮置きしてクレーンのフックを巻き上げたところ、玉掛用具がH鋼に引っかかりH鋼が倒れ、被災者の胸部に当たった。



2 発生日：平成29年9月20日

年齢、性別：54歳 男性

事故の型：転落

起因物：フォークリフト

災害の概要

廃棄物を入れたロールボックスパレットをフォークリフトに載せて廃棄物用コンテナまで運んだ後、フォークをコンテナ上端まで上昇させて廃棄物をコンテナ内に投棄していたところ、バランスを崩してロールボックスパレットごと転落した。



3 発生日：平成29年10月17日

年齢、性別：26歳 男性

事故の型：挟まれ、巻き込まれ

起因物：その他の動力運搬機

災害の概要

製造機械が停止したため点検業務を行っていた際に、機械駆動部を覗き込んだところ、突然機械が動きだし、当該機械に上半身を挟まれた。

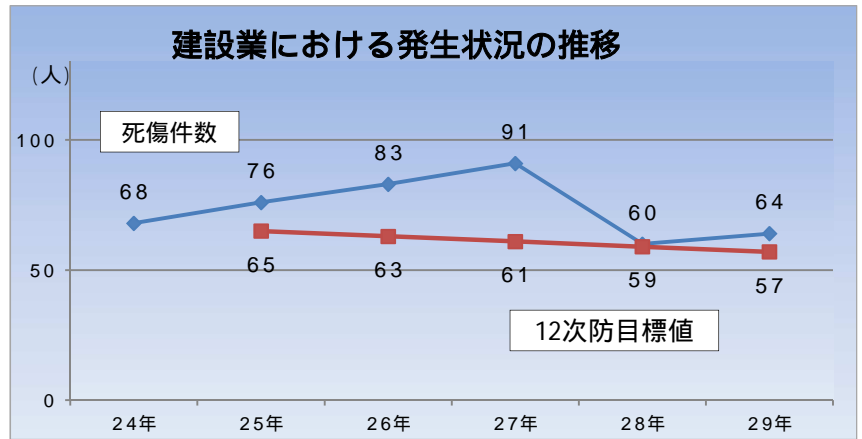


## 6. 建設業における労働災害発生状況

### 建設業における経年推移

建設業における労働災害は、近年では、平成27年がピークで、28年は大幅に減少した。29年はやや増加したが、近年では低い数値を維持している。

12次防の目標は達成できなかったが、平成27年の乖離の大きさと比べると、概ね目標に近づいたといえる。

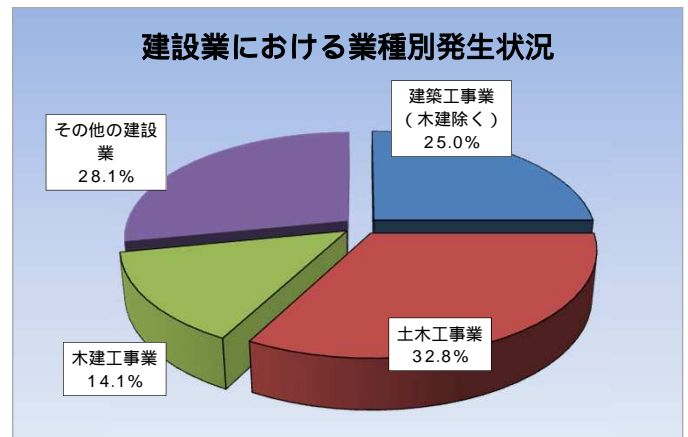


### 建設業における業種別発生状況

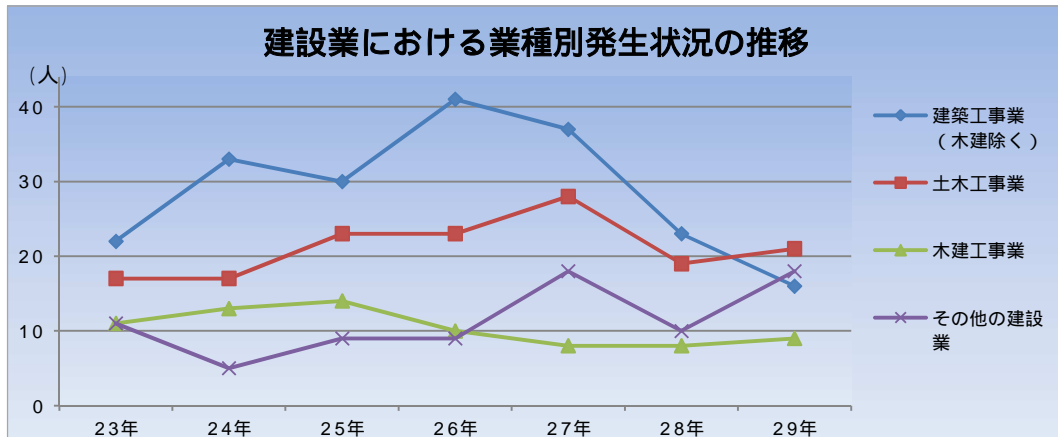
建設業を更に細かい業種で見ると

|             |             |
|-------------|-------------|
| 建築工事業（木建除く） | 16人 (25.0%) |
| 土木工事業       | 21人 (32.8%) |
| 木建工事業       | 9人 (14.1%)  |
| その他の建設業     | 18人 (28.1%) |

となっている。



### 建設業における業種別の経年推移



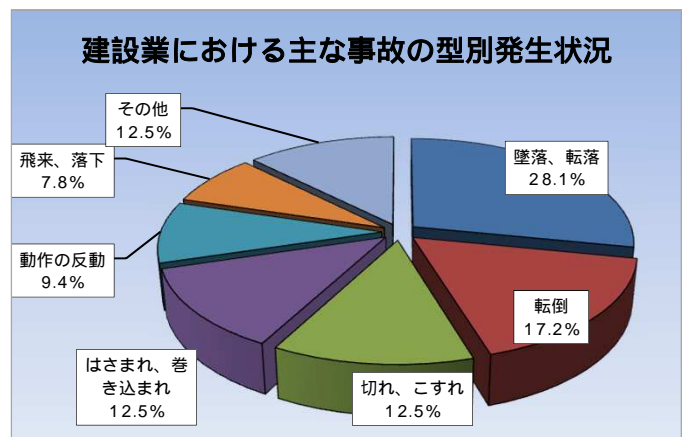
建設業にあつては、建築工事業が常に最多で推移していたが、近年、減少傾向が強く、平成29年は、土木工事業よりも発生件数は減少した。

### 建設業における主な型別の災害発生状況

事故の型別で見ると

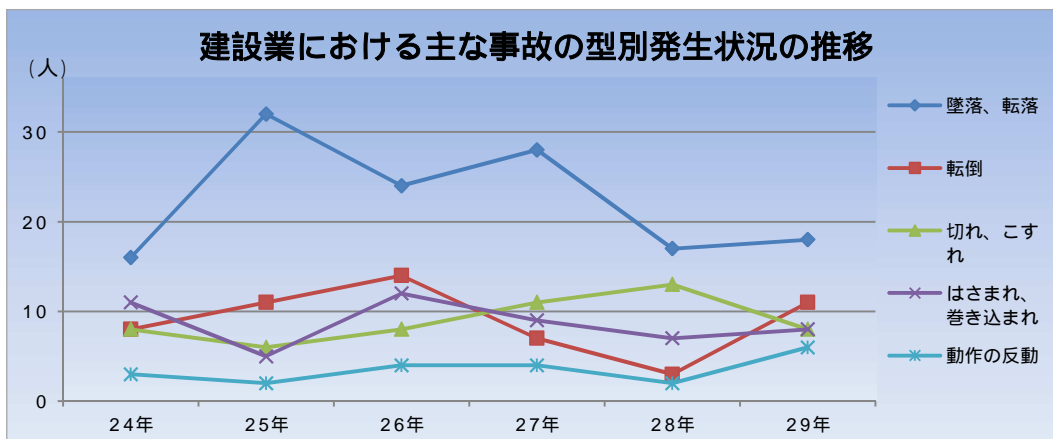
|            |             |
|------------|-------------|
| 墜落、転落      | 18人 (28.1%) |
| 転倒         | 11人 (17.2%) |
| 切れ、こすれ     | 8人 (12.5%)  |
| はさまれ、巻き込まれ | 8人 (12.5%)  |
| 動作の反動      | 6人 (9.4%)   |
| 飛来、落下      | 5人 (7.8%)   |

が主な事故の型となっている。

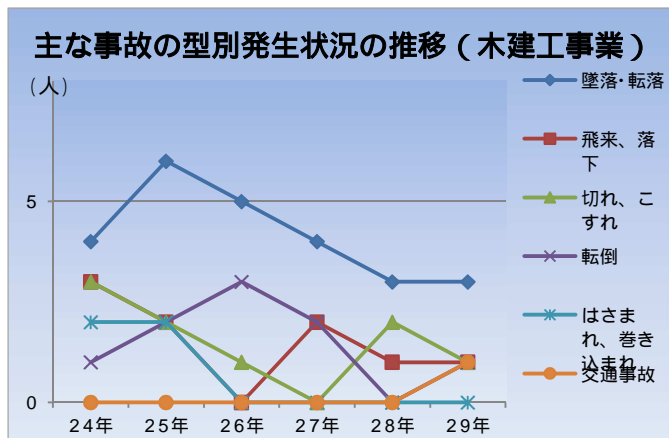
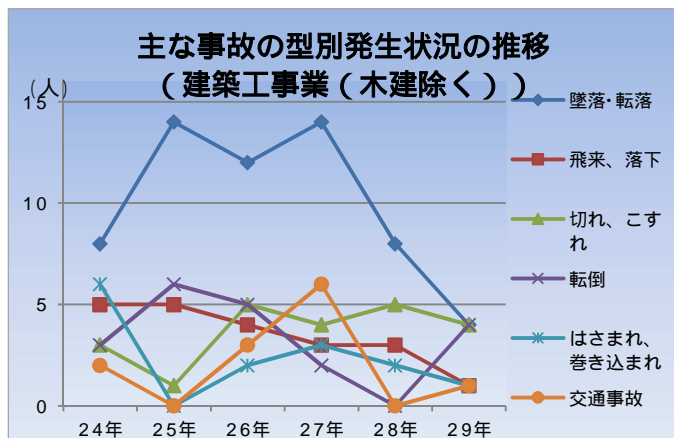
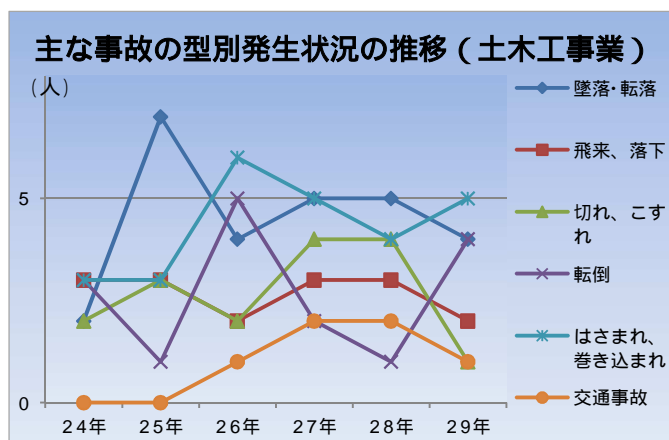




建設業における災害の型別の発生状況の推移を見てみると「墜落・転落」災害は減少傾向にあるが、平成29年は「転倒」災害が大幅に増加した。近年は、年齢別で見ると高齢者にかかる災害は減少傾向にあるとともに、経験年数別では、経験年数の浅いいわゆる未熟練者にかかる災害が増加傾向にある



建設業における型別の推移をさらに細かく見ると、  
**土木工事業**では、「転倒」、「はさまれ、巻き込まれ」災害が増加した。  
**建築工事業（木建除く）**では、「墜落」災害が大幅に減少した。

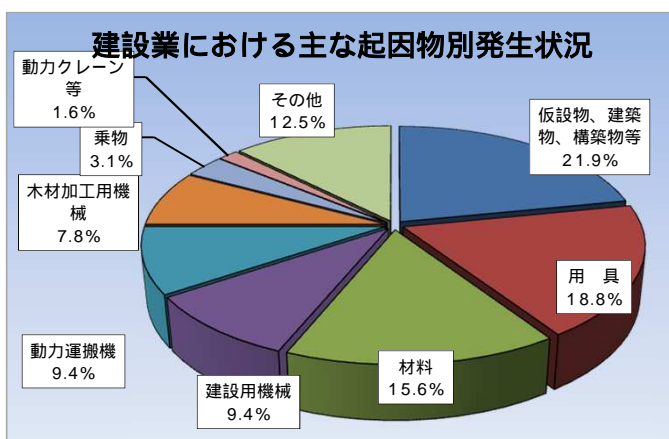


### 主な起因物の災害発生状況

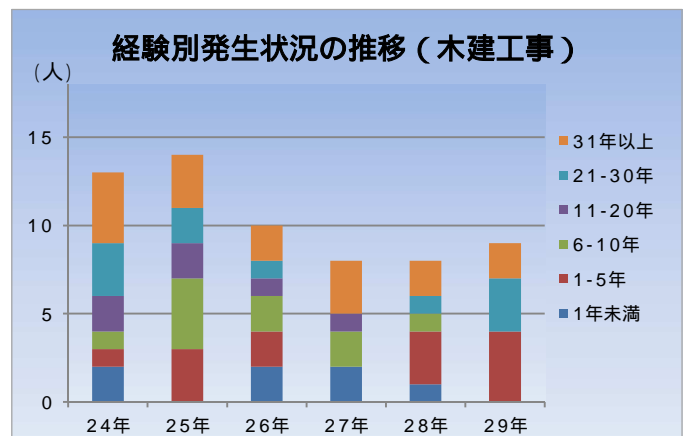
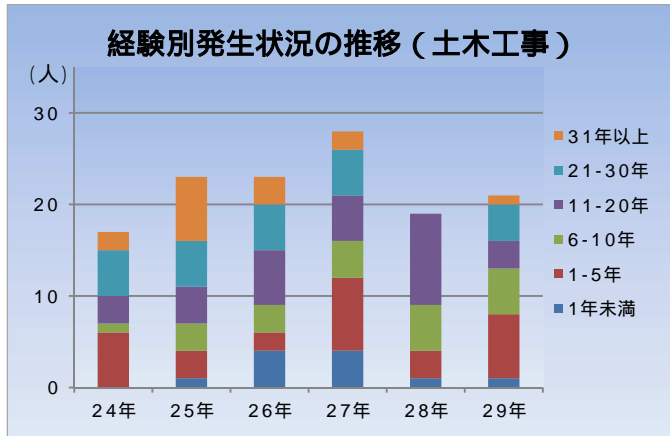
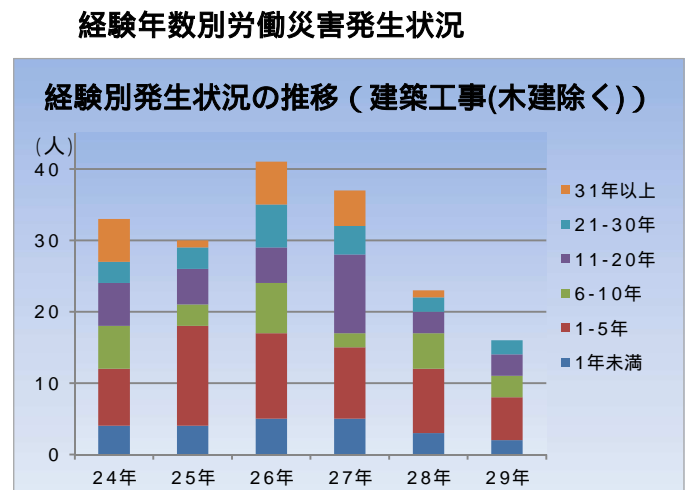
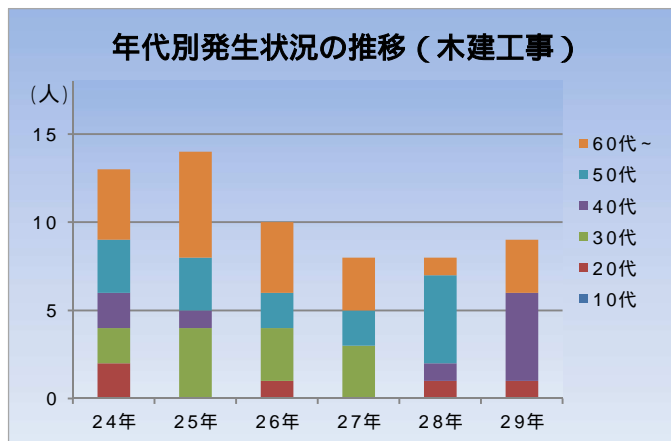
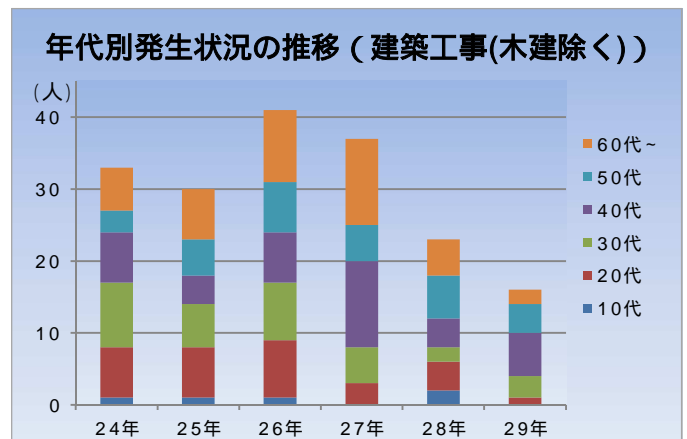
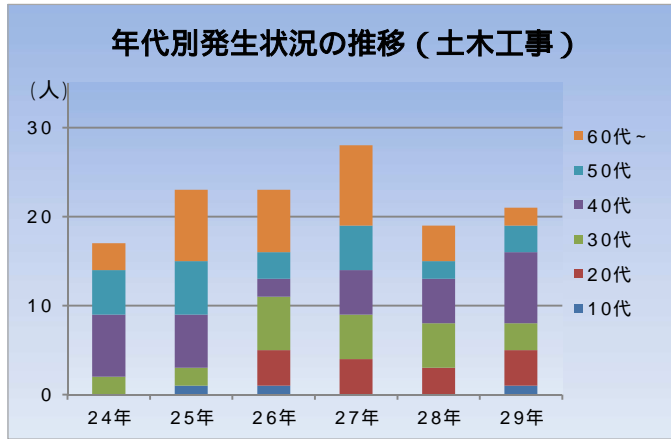
事故の起因物別で見ると

|              |     |         |
|--------------|-----|---------|
| 仮設物、建築物、構築物等 | 14人 | (21.9%) |
| 用具           | 12人 | (18.8%) |
| 材料           | 10人 | (15.6%) |
| 建設用機械        | 6人  | (9.4%)  |
| 動力運搬機        | 6人  | (9.4%)  |
| 木材加工用機械      | 5人  | (7.8%)  |

が主な起因物となっている。



## 年代別労働災害発生状況



## 平成29年の建設業における死亡災害事例（山梨県内）

### 1 発生日：平成29年7月25日 災害の概要

年齢、性別：37歳 男性  
 事故の型：挟まれ、巻き込まれ  
 起因物：掘削用機械

0.02㎡のドラグショベルを用いて深礎工立坑内の地山の掘削作業を行っていた被災者がドラグショベルを後進させたところ、ドラグショベルの走行レバーと切り梁の間に体を挟まれたもの。走行レバーを倒す体勢で挟まれたため、ドラグショベルは後進を続ける状態となった。



### 2 発生日：平成29年11月20日 災害の概要

年齢、性別：26歳 男性  
 事故の型：墜落  
 起因物：建築物、構築物

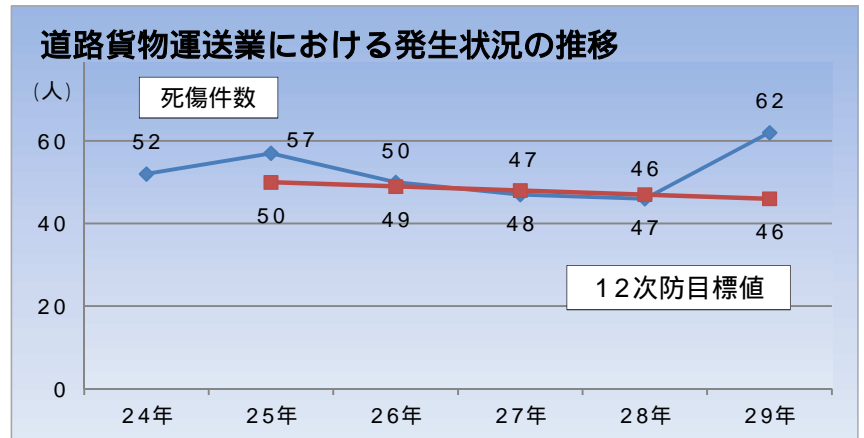
林道の橋にガードレールを設置するため、ガードレールを取り付ける支柱の建て込み作業を行っていたところ、橋の端部を移動中に5.1m下の斜面に墜落し、さらに同斜面を90m以上滑落した。



## 7. 道路貨物運送業における労働災害発生状況

### 道路貨物運送業における経年推移

- ・ 交通運輸業のうち、道路貨物運送業における労働災害は、平成29年は大幅に増加した。
- ・ また、29年には2人の死亡災害が発生した。
- ・ 平成28年までは12次防の目標通り推移していたが、29年には、大幅な乖離が発生した。



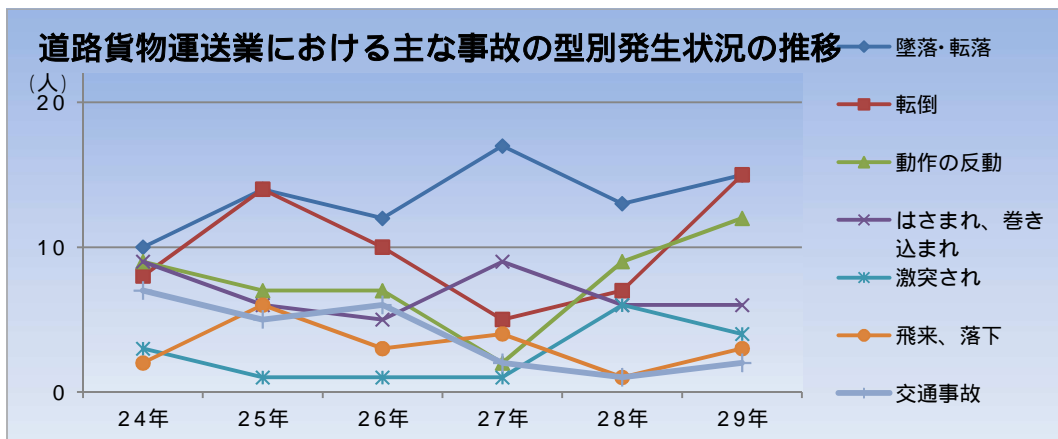
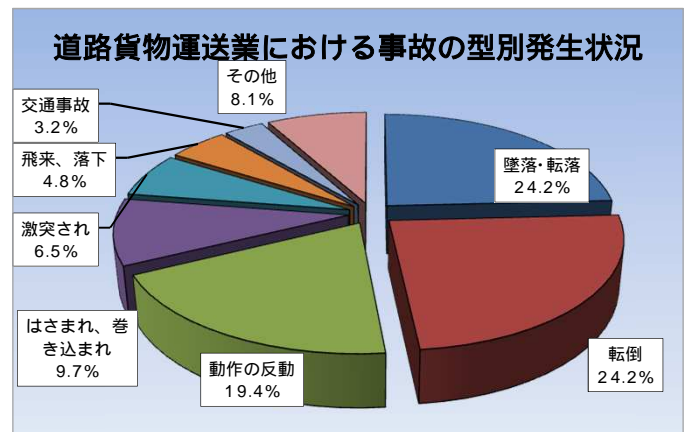
### 道路貨物運送業における主な事故の型別の災害発生状況

事故の型別で見ると

|            |             |
|------------|-------------|
| 墜落・転落      | 15人 (24.2%) |
| 転倒         | 15人 (24.2%) |
| 動作の反動      | 12人 (19.4%) |
| はさまれ、巻き込まれ | 6人 (9.7%)   |
| 激突され       | 4人 (6.5%)   |
| 飛来、落下      | 3人 (4.8%)   |
| 交通事故       | 2人 (3.2%)   |

が主な事故の型となっている。

道路貨物運送業における事故の型別では、「転倒」災害が大幅に増加したが、荷台等からの「墜落・転落」災害も依然として多発している。

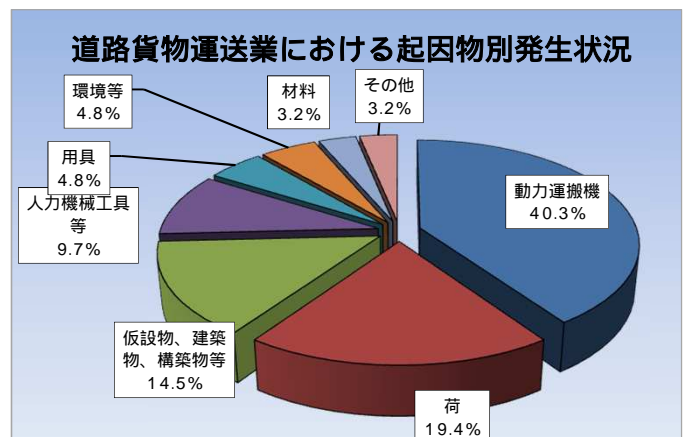


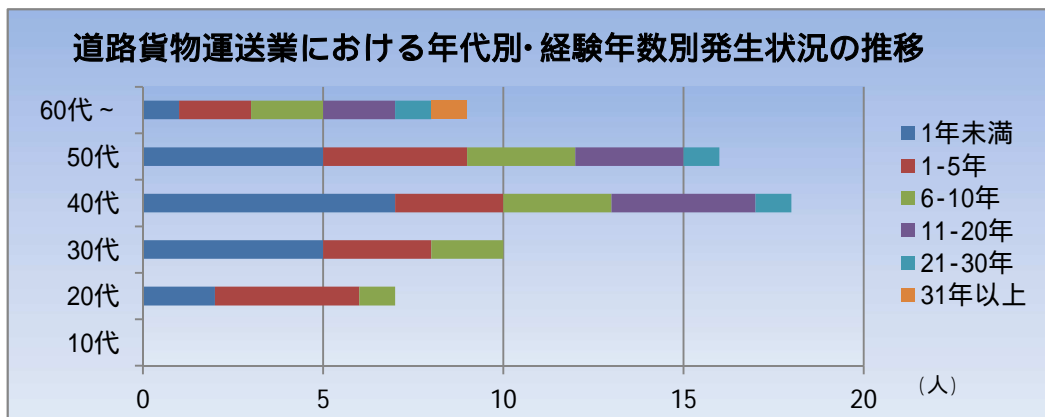
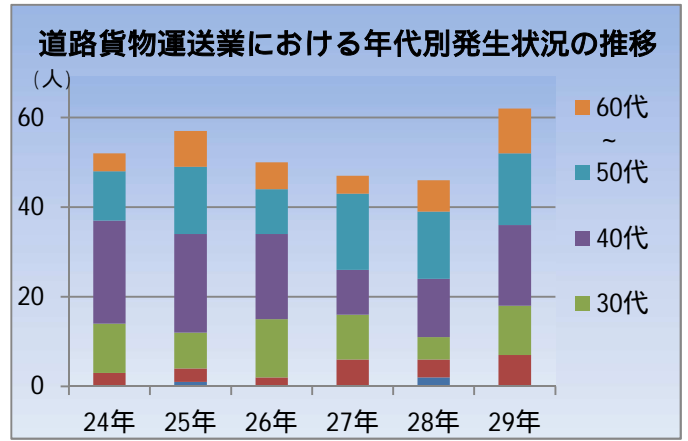
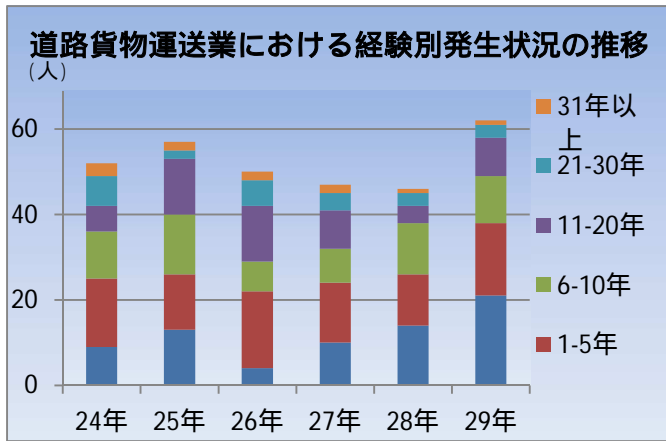
### 主な起因物の災害発生状況

事故の起因物別で見ると

|              |             |
|--------------|-------------|
| 動力運搬機        | 25人 (40.3%) |
| 荷            | 12人 (19.4%) |
| 仮設物、建築物、構築物等 | 9人 (14.5%)  |
| 人力機械工具等      | 6人 (9.7%)   |
| 用具           | 3人 (4.8%)   |
| 環境等          | 3人 (4.8%)   |

が主な起因物となっている。





年齢別、経験年数別をクロスしてみると、特に40代、50代において経験年数の短い労働者の災害が多く発生した。

国勢調査結果（2000年 2015年）から見ると、山梨県内の道路貨物運送業の就労者数は、ほぼ横ばい状態であるものの、30代以下の労働者の割合が35%から25%へと10ポイント程度低下し、逆に60才以上の労働者の割合が10.6%から14.7%と4ポイント程度増加している。今後においても、若年労働者の減少と、高齢労働者の増加を踏まえた災害防止対策の取り組みが必要になる。

## 平成29年の道路貨物運送業における死亡災害事例（山梨県内）

### 1 発生日：平成29年3月8日 災害の概要

年齢、性別：48歳 男性

事故の型：墜落

起因物：トラック

工事現場（明り掘削の箇所）から排出された土砂の運搬のため現場に入場していたダンプトラックが、荷台に土砂を積んだ後、現場内の作業道から通ずる仮設栈橋を渡って土捨て場に向かおうとしていたところ、現場内の作業道と仮設栈橋の接合部付近において、作業道端部の単管柵及び仮設栈橋の柵を突き破り、約3.4メートル下に墜落した。



### 2 発生日：平成29年6月23日 災害の概要

年齢、性別：67歳 男性

事故の型：挟まれ、巻き込まれ

起因物：トラック

朝の点呼後、車中のゴミを捨てようと4tトラックから降りて事務所に向かっていたところ、トラックのサイドブレーキが降ろしたままの状態であったためトラックが動きだし、これを止めようとして轢かれた。

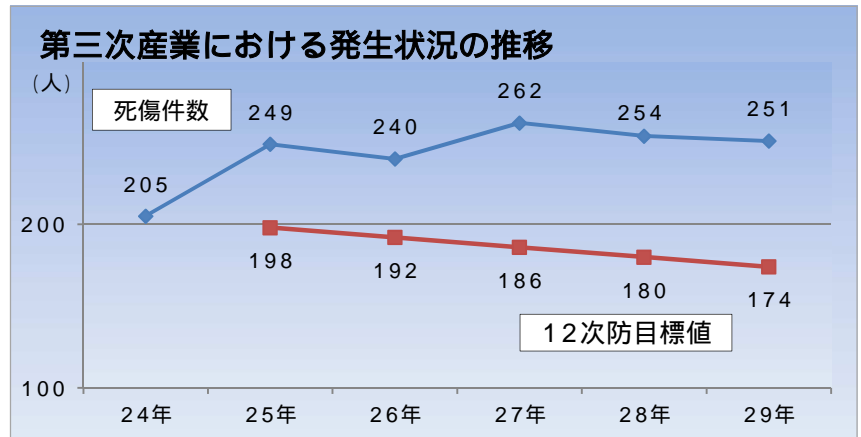


## 8. 第三次産業における労働災害発生状況

〔第三次産業とは、商業、金融・広告業、映画・演劇業、通信業、教育・研究業、保健衛生業、接客娯楽業、清掃・と畜業、官公署、その他の事業をいいます。〕

### 第三次産業における経年推移

第三次産業における労働災害は、平成25年以降増加傾向にあり、平成29年においても高止まり状況にあり、12防目標からは、大きく乖離した状況である。

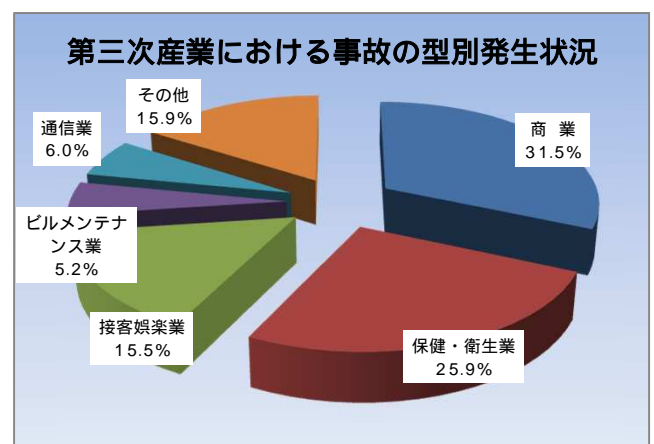


### 第三次産業における業種別の災害発生状況

第三次産業を業種別に見ると

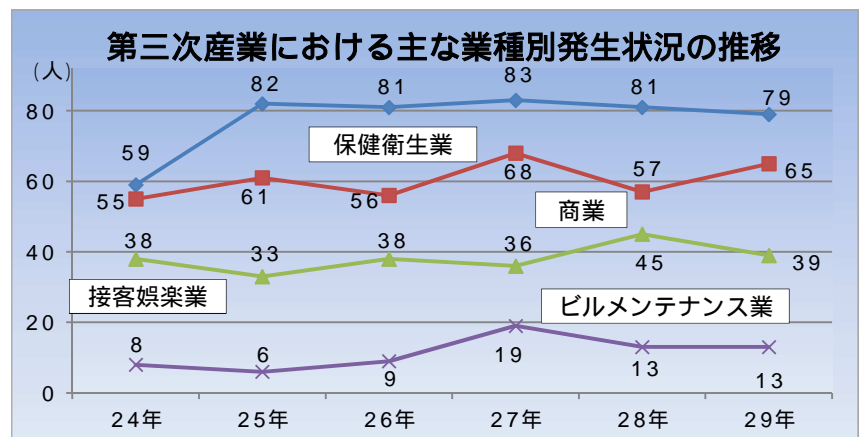
|           |             |
|-----------|-------------|
| 商業        | 79人 (31.5%) |
| 保健・衛生業    | 65人 (25.9%) |
| 接客娯楽業     | 39人 (15.5%) |
| ビルメンテナンス業 | 13人 (5.2%)  |
| 通信業       | 15人 (6.0%)  |

が主な業種となっている。



### 第三次産業における業種別の推移

第三次産業の中では、商業が大幅に増加した。

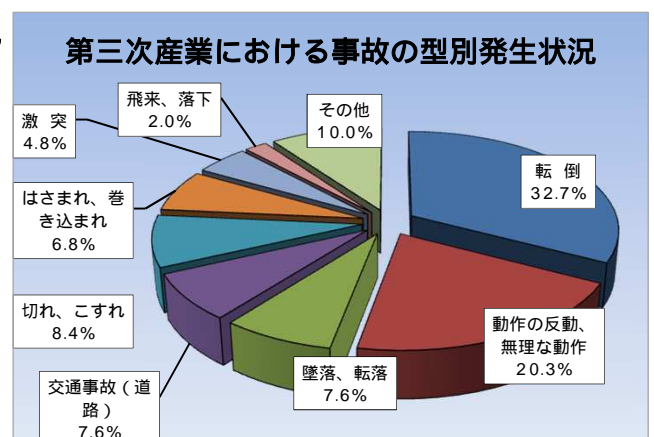


### 第三次産業における主な事故の型別の災害発生状況

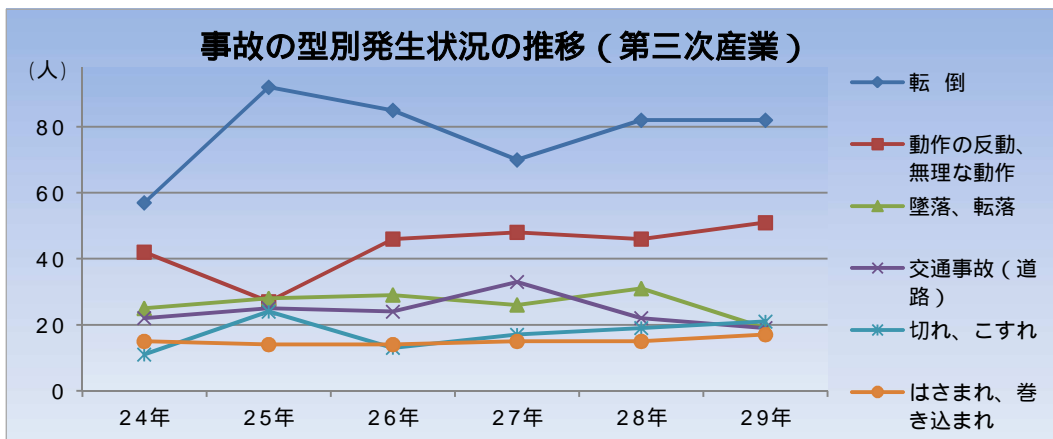
事故の型別で見ると

|             |             |
|-------------|-------------|
| 転倒          | 82人 (32.7%) |
| 動作の反動、無理な動作 | 51人 (20.3%) |
| 墜落、転落       | 19人 (7.6%)  |
| 交通事故(道路)    | 19人 (7.6%)  |
| 切れ、こすれ      | 21人 (8.4%)  |
| はさまれ、巻き込まれ  | 17人 (6.8%)  |
| 激突          | 12人 (4.8%)  |

が主な事故の型となっている。



第三次産業における事故の型別の発生状況の推移を見てみると依然として「転倒」災害が多く、昨年は増加に転じたが、29年はほぼ横ばい状態である。

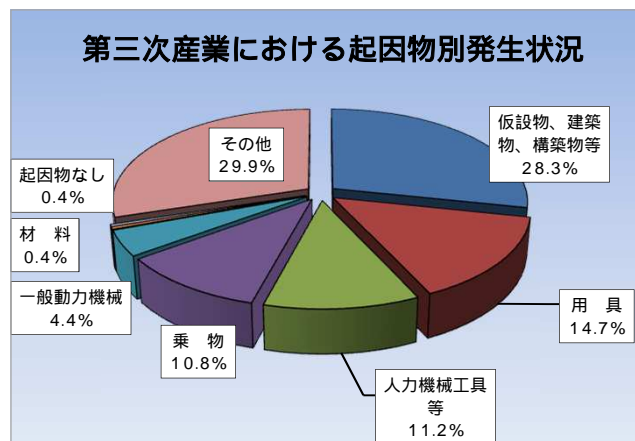


### 主な起因物の災害発生状況

事故の起因物別で見ると

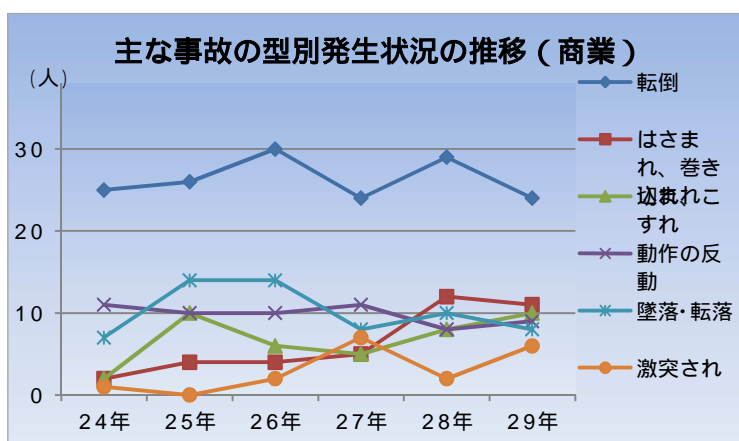
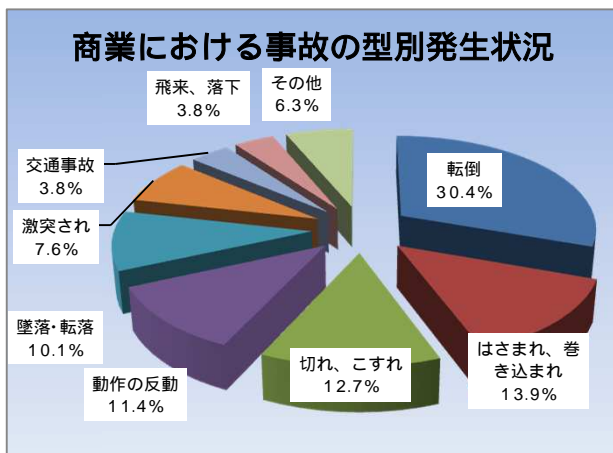
|              |     |         |
|--------------|-----|---------|
| 仮設物、建築物、構築物等 | 71人 | (28.3%) |
| 用具           | 37人 | (14.7%) |
| 人力機械工具等      | 28人 | (11.2%) |
| 乗物           | 27人 | (10.8%) |
| 一般動力機械       | 11人 | (4.4%)  |

が主な起因物となっている。

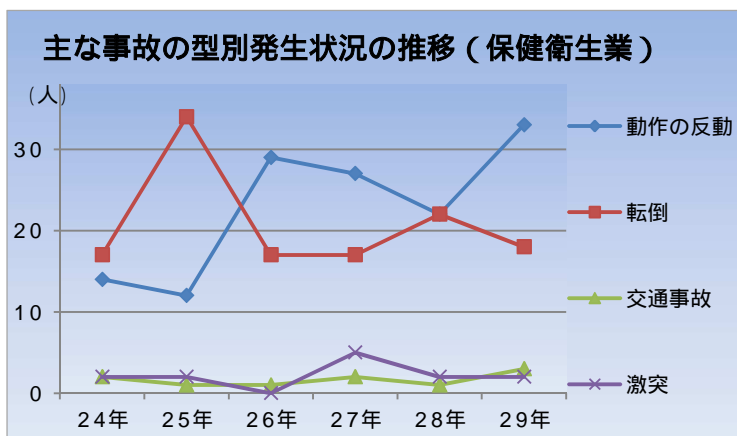
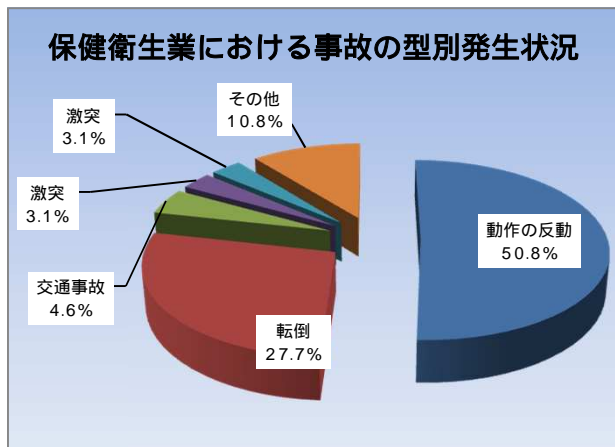


### 第三次産業における主な業種の型別災害の推移

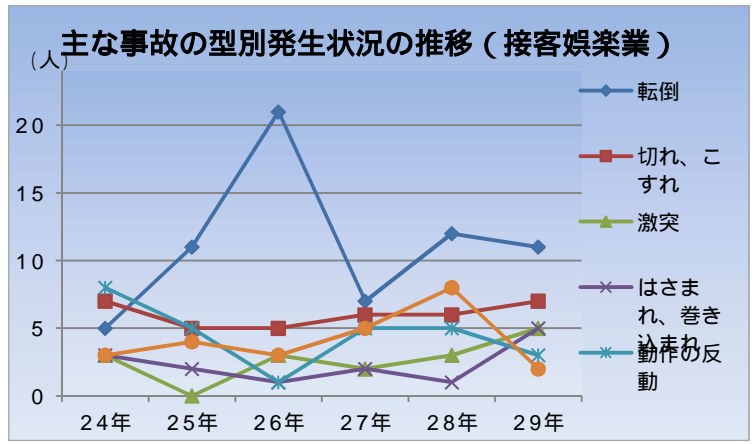
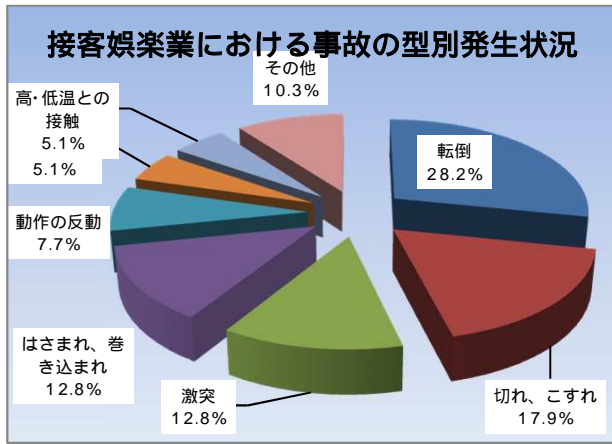
#### 商業における主な型別災害の推移



### 保健衛生業における主な型別災害の推移



## 接客娯楽業における主な型別災害の推移



## ビルメンテナンス業における主な型別災害の推移

